

普及活動情勢報告（令和6年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

JA 土佐くろしおの農産物が勢揃い！ ～JA まつり農産物展示品評会審査～



審査をする普及指導員ら

11月16日、JA 土佐くろしおで、JA まつり農産物展示品評会に出点された農産物約340点の審査を行いました。

農業改良普及課とJAとで、主力品目であるミョウガ、キュウリ、シシトウ、ニラ、サヤインゲン、ピーマン、花きについて、形や色、全体の揃い等について評価し、受賞者を選定しました。

JA職員が「今作の促成作型は、生育初期の高温の影響により例年と比べて厳しい条件での栽培であったが、生産者から選りすぐりの農産物が出品され、審査することができた」と嬉しそうに話す姿が印象的でした。

農業改良普及課は今後も、管内農産物の生産振興を支援していきます。

今年もたくさん出荷しましょう！ ～シシトウ部会出荷始め総会～



積極的に意見交換をする生産者ら

11月19日、須崎市で、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会が出荷始め総会を開催し、生産者23人が参加しました。

農業改良普及課は、黒枯病とハスモンヨトウの発生についての注意喚起、殺菌剤の作用性とローテーション散布の重要性について説明を行いました。

生産者からは「定植初期から予防防除を行いたい」との声がありました。また、「夏場の暑さ対策として寒冷紗等への補助を検討してほしい」との意見がありました。

農業改良普及課は、関係機関とともに有効な暑さ対策について検討し、産地の生産力と品質の向上を目指します。

新規就農者の経営改善のために ～令和6年度新規就農者激励会～



出席した新規就農者

11月20日、道の駅かわうその里・すさき会議室で、JA 土佐くろしお4HCが新規就農者激励会を開催し、9人の新規就農者が出席しました。

農業改良普及課は、農業の基礎知識として、高知県の農業振興の取組と農業経営（ライフプランほか）について説明しました。家計費について、家計調査の金額を参考に質問すると、「もっと使っている」などの声があり、必要な所得を考えた農業の計画づくりの重要性を伝えることができました。

農業改良普及課は、今後も新規就農者への情報提供を行います。

ユリの有利販売を目指して ～データ駆動型農業の推進～



草丈と花蕾長を調査する普及指導員

11月27日、中土佐町のユリ生産者1戸のほ場で、温度管理等の指導を行いました。

農業改良普及課は、高単価である1月の出荷を目指して、収穫適期予測のための生育調査（草丈、第1発雷長など）とハウス内温度の収集を10月から毎週行っています。

今回は、調査データをもとにグラフ化した収穫予測と、病虫害発生状況などを記載したお返しシートを渡して、「定植から気温が高く推移し、目標とする1月下旬の収穫日より早い出荷となりそうです。蕾が肥大してきたので温度管理を徹底しましょう」と指導しました。

農業改良普及課は今後も、ユリの有利販売につながる精度の高い予測ができるよう、データ駆動型農業を推進していきます。

土壌の断面を見てみよう ～土壌断面調査による土壌診断～



土壌断面と根張りを確認する普及指導員

12月4日、津野町の甘長トウガラシ栽培終了後のほ場で、土壌断面調査による土壌診断を行い、生産者2人とJA営農指導員1人が参加しました。

土壌断面調査では作土層と耕盤層の状況、根張りの確認を行いました。生産者は土づくりに熱心に土壌環境にも関心が高く、耕うんの仕方や生育状況との関連を考えるきっかけとなりました。また、「今回の土壌診断について他の生産者と情報交換したい」との感想がありました。

農業改良普及課では今後、今回の調査結果を生産者の会で紹介し、土壌物理面の改善行動につなげていきます。

農薬の記帳、適正使用を徹底しよう ～JA土佐くろしお園芸部オクラ部会決算総会～



農薬の使用履歴の記帳、適正使用について説明する普及指導員

12月4日、JA土佐くろしお園芸部オクラ部会が、大間出荷場で、令和6園芸年度決算総会を開催し、生産者7人が参加しました。

農業改良普及課は、リーフレットを配布して農薬使用履歴の記帳、農薬の保管および適正使用についての説明を行い、次作に向けて農薬事故の注意喚起を行いました。

生産者は、配付したリーフレットを見ながら真剣に内容を確認していました。

農業改良普及課は今後も、関係機関とともに農薬の適正使用についての啓発を行っていきます。